

年次報告書

シャンティ国際ボランティア会

40年の蓄積を糧に、前へ

混迷するミャンマー、アフガニスタン情勢

本
の
力
を
、
生
き
る
力
に
。



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

40th
anniversary





混迷するミャンマー、 アフガニスタン情勢

ミャンマーとアフガニスタンが 直面する人道危機に対して、 シャンティの役割を見直し、 人道支援、教育文化支援に 取り組む姿勢を新たにしました。

ごあいさつ

日ごろシャンティの活動をあたたかく見守ってくださる皆さまに、改めて深甚なる感謝を申し上げます。おかげさまで設立40周年という節目を越えました。

2021年はシャンティが活動するミャンマーとアフガニスタンで立て続けに政変が起きました。非常に苦慮する状況ではありますが、困難に遭遇した人々を置いて撤退するという選択肢はありません。こうした時であるからこそ、皆さまに支えられ、培ってきた経験と知見を総動員し、引き続き支援を届けていきたいと願っています。

世界には、人種・民族・宗教・国家といったさまざまな違いがある一方、ただひとつ、人として平等と言えるのは、生まれ出ずる命には意味があるということだと思います。その尊厳を守るための種をまき、育てていくことが40年間変わらないシャンティの軸です。これからも未来に向けて、志を同じくする企業、諸団体、個人の皆さまとの連携をより一層深化させながら、一步一步進んでいければと思っています。

どうか皆さまにおかれましても、「日暮れて道遠し」という思いをお持ちかもしれませんが、私たちとシャンティ（平和）への道を共に歩んでくださいますよう今後ともよろしくお願いいたします。

会長 **若林恭英**



2021年のトピックス

第28回読売国際協力賞を受賞

読売国際協力賞は、さまざまな活動を通じて国際社会への貢献の重要性について身をもって示した個人や団体が表彰されるものです。今回シャンティはアジア6か国8地域で図書活動を中心とした教育文化支援に長年取り組んでいることを評価され、受賞するに至りました。

今回の受賞はシャンティと関わってくださっている皆さまのおかげだと強く感じております。これからの励みとし、引き続き活動に邁進いたします。



設立40周年を迎え、ウェブサイトをリニューアル

2020年から行ってきた、団体ロゴマークや広報媒体のリニューアルの集大成として、2021年12月にウェブサイトを刷新しました。

新しいウェブサイトでは、ご支援者さまにはより深く、そして新たに活動に参加して下さる方にはより分かりやすくシャンティを知ってもらえるよう、シャンティを表現するメッセージの更新や、最新の活動の様子が伝わるデザイン、SDGs達成に向けて参加型教材をまとめたページを新たに導入しました。



「絵本を届ける運動」ロゴマークをリニューアル

新しいロゴマークは、たんぼの綿毛を象徴的にマーク化しました。本から芽が出るというシャンティの団体ロゴ、そして種をマーク化した40周年記念ロゴに呼応する形で、絵本がもたらす、芽吹く未来への可能性と、その元となる「種を届ける」=「絵本を届ける」ということを表現しています。綿毛部分は開いた絵本を横から見た形をイメージしています。海外現地職員も含む、全職員の意見を集約して決定しました。



絵本を届ける運動
Campaign to Deliver Picture Books

ミャンマー、アフガニスタンにおける政変。

継続する危機下を受容しながら

3月にミャンマーのクーデター、8月にアフガニスタンでタリバンによる首都カブール制圧が起こり、直後は現地職員の安否確認や事業の調整に奔走しました。それから少し経ち、両国とも日を追うごとに、人々の生活は困窮を極め、子どもの教育機会もはっきり確保できない状態が続き、支援ニーズが高まる一方、支援実施が今までになく厳しい状態に置かれた1年でした。

短期間で必要な資金を集める必要があったことや、活動地における安全確保が100%できる状態ではなかったこと、支援を実施することが政治的影響につながってしまう可能性などもあり、難しい判断を迫られる日々でした。

2020年から継続するコロナ禍も含め、職員それぞれに事業継続のリスクがある中でも、シャンティとしての決断は歩みを止めないということでした。ご支援者の皆さまからの多くのサポートやお声がけが、職員一同にとって大きな勇気になりました。40年の積み重ねがこれまでにない困難を乗り越える力となり、ご支援者の皆さまも含め全員が同じ方向を向いていると感じています。

2021年に起こったことは、シャンティが日ごろから準備していた危機管理の想定をはるかに超えていました。これまでの危機下における支援は、フェーズごとに対応を進めることができましたが、最近は安定と不安定を常に行き来しているような状況で先が読めず、支援活動も長期化しています。危機下における支援と、通常教育文化支援を並行して取り組むことを前提とし、事業実施の方法を今一度考え直す必要があると感じています。

中期事業計画を

地道に進めたことが成果に

2021年は、2024年までに取り組むことを決めた6カ年の中期事業計画の折り返し地点でもありました。特に組織基盤の強化に注力し、団体運営の効率化を図ることで、シャンティとして自分たちの業務に集中できる環境整備を進めました。団体規程の見直しや、組織図とそれぞれの役割の整理、そして大きかったのが運営現地化方針の改定に取り組んだことです。現地職員の役割をより明確にしたことは、シャンティの歴史においても非常に大きな一歩で、これからの活動に生きてくると思います。

もうひとつ、過去に例がなかったこととして、シャンティとして初めて中間決算を出しました。危機下での支援を進める上で予算も含めて早めに調整し、判断することができたのは、中間決算を出せるように日々準備をしていたことが下支えになりました。その上で、新たにインターネット経由やクラウドファンディングという形でご寄付を募った結果、多様な財源を確保することができました。

また、コロナ禍においても日本の子どもたちが海外へ目を向け、理解を深めることができるよう、難民キャンプの子どもを事例とした学習動画や教材を開発しました。

2019年の策定時から、どんなことがあっても中期事業計画の内容は優先度を下げずに取り組もうと決め、職員一丸となってほぼスケジュール通りに進めることができました。ミャンマーやアフガニスタンにおける危機対応と並行して、組織基盤の強化や国内事業を地道に進めたことが、最終的に2021年の成果につながったと感じています。

40年の蓄積を糧に、前へ



事務局長

山本 英里

コロナ禍に加え、ミャンマーとアフガニスタンでの政変。

ここまで歩いてきた道が、閉ざされたかのような気持ちになりながらも、

シャンティとして出した結論は、少しずつでも前へ進むことでした。

予想していなかった危機を前に悩み、決断した1年を振り返ります。

40年の蓄積を、未来への覚悟に。

区切りではなく、通過点として

団体設立40年という節目の年でもあったこの1年は、これまでの40年間の蓄積を改めて紐解く日々でもありました。ミャンマーやアフガニスタンでどのように支援を続けるべきか判断する上で、シャンティがなぜ1981年にカンボジアの難民キャンプで教育文化支援を始めたのか、その想いに立ち返りました。やはりそれは人間の尊厳を守るためであり、シャンティとして何をすべきか、何を優先すべきかを判断する時に、軸がより強固になったと感じています。

また、40周年を機に団体としてロゴを刷新し、制作物やウェブサイトもリニューアルしました。40年ずっと大切にしてきた想いを、改めて表現することにチャレンジしたことは、団体としての大きな財産になったと同時に、覚悟にもつながったように思います。

これからもシャンティは世界のより複雑な社会、紛争、貧困問題と向き合い続けると共に、どのような危機下においても人間の尊厳を守るための教育文化支援を継続していきます。すべての活動が、シャンティが目指す平和な社会の実現に不可欠だと考えていますが、私たちだけで達成することはできません。これからも皆さまと手を取り合い、まだ見ぬ未曾有の危機にも向き合っていけたらと思います。区切りではなく通過点として、40年の蓄積を力に変え、さらなる一歩を踏み出していくシャンティを今後ともよろしくお願いいたします。

中期事業計画

2019年に、2024年までに取り組む内容をまとめた中期事業計画を策定しました。
4つの領域に注力し、新たな事業を展開しています。

1. 専門性を高め、新たな海外事業を展開します

シャンティが継続して取り組んできた絵本やおはなしの読み聞かせを軸とした読書推進、ライフスキル教育を強化し、新たな海外事業を展開します。

- ・図書館活動のノウハウのパッケージ化、ノンフォーマル教育分野での活用
- ・国内外の緊急人道支援における図書館活動
- ・アジア以外での緊急人道支援、新しい国・地域における活動の展開

* 2020年：新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動国と日本での緊急支援事業を実施しました。

* 2021年：読書推進、ライフスキルを含む子どもの教育の専門性を高めるため、教育事業のリソースの体系化、ノンフォーマル教育に寄与する図書館活動のマニュアル作成、教育事業に関わる職員向け勉強会を16回行いました。

2. 日本国内での新規事業を推進します

シャンティが培ってきたアジアでの経験と学び、つながりを活かし、日本における子どもの貧困、外国ルーツの子どもたちが抱える課題を解決するため、日本国内での事業を推進します。

* 2020年：国内事業として、外国ルーツの子どもたちを対象とした居場所づくり事業を開始しました。コロナ禍ではオンラインで、子どもたち同士が自分のペースで交流できる場を設けています。

* 2021年：東京都豊島区で在留外国人を対象に、継続するコロナ禍における包括的生活安定支援事業を開始しました。



ミャンマー緊急支援のためのクラウドファンディング



アフガニスタン緊急支援のためのクラウドファンディング



40周年記念オンラインイベント
「人道危機にどう向き合うか～40年を迎え、問われるNGOの支援と可能性～」

3. 政策提言、パートナーシップを強化します

子どもの権利条約第28条・29条「教育の目的」達成に寄与することを目指し、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップを強化します。

- ・読書推進を行う企業、団体との連携強化
- ・専門家とともに事業や活動成果の検証、効果測定、調査研究の結果公表
- ・活動地における教育政策の改善に寄与する提言書の作成
- ・市民が気軽に参加できる「絵本を届ける運動」ワークショップの推進、市民とのコミュニケーション強化

* 2020年：日本から海外へ目を向け、理解を深めることができるよう、活動地の子どもを事例とした学習動画や教材を開発しました。

* 2021年：コロナ禍において、オンラインワークショップに積極的に取り組み学びの場を提供しました。

4. 組織の国際化を目指します

日本生まれのNGOとしてさらに事業を推進していくために、人材育成や多様な働き方の導入など、組織基盤を強化します。

- ・組織基盤の強化
- ・職員の能力開発、次世代リーダーの育成
- ・国を越えた国際職員の配置
- ・多様な働き方に柔軟に対応できる制度の整備
- ・国内外での認知向上、多様な財源の確保

* 2019年：次世代リーダー育成のため、各事務所から職員が来日し、東京事務所の職員とともに研修を行いました。

* 2021年：団体設立40周年を契機に広報資料やウェブサイトのリニューアルを行いました。組織基盤強化では団体規程の刷新、運営現地化方針の見直しを行いました。

これまでの支援活動実績 (2021年末まで)

実績1 学ぶための本や活動

	2021年度	通算
絵本・紙芝居出版	3タイトル	647タイトル
届けた絵本	15,682冊	362,717冊
図書館利用者	212,247人	1,623万人



実績3 安心して学べる場所

	2021年度	通算
学校建設	3校	429校
図書館・図書室設置	13館・室	1,016館・室



実績2 学びを届ける人

	2021年度	通算
研修参加者	104回 / 3,705人	778回 / 42,384人



実績4 緊急人道支援

	2021年度	通算
緊急救援出動回数	5回 ・海外4回 ・国内1回	81回 ・海外51回 ・国内30回

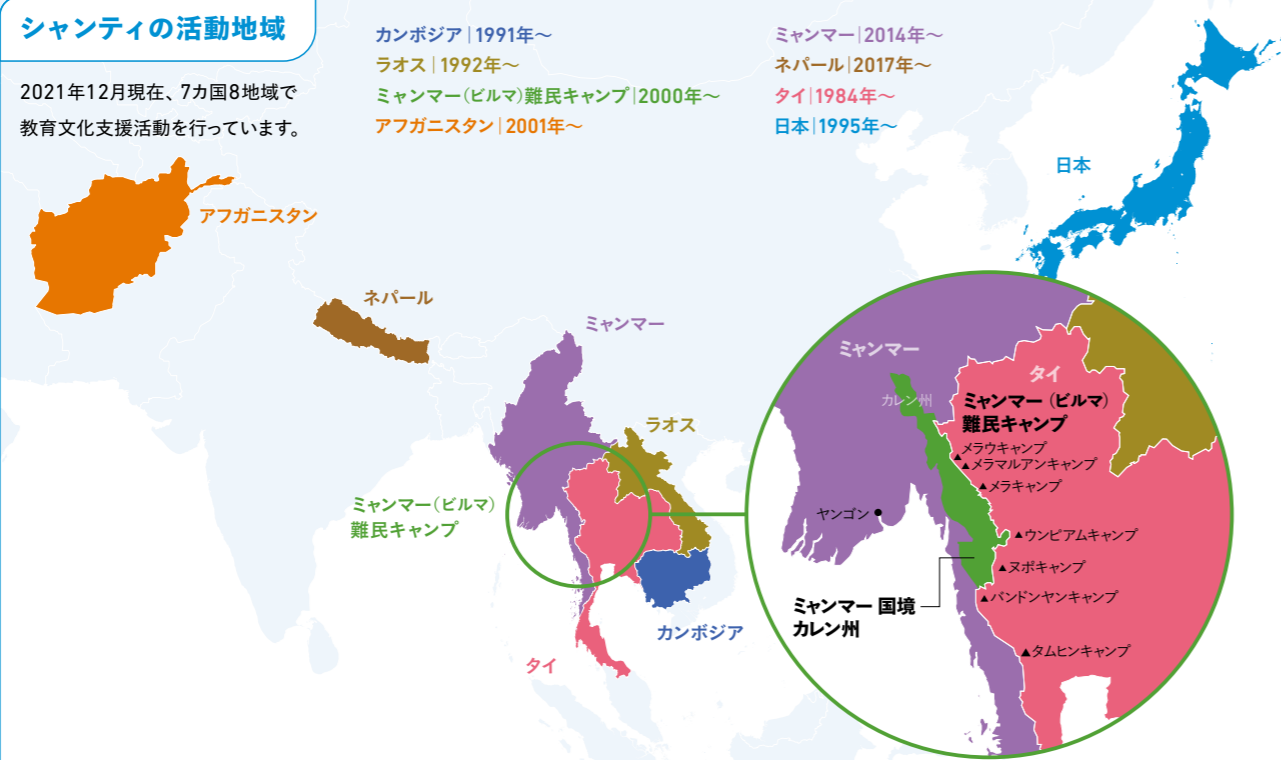


シャンティの活動地域

2021年12月現在、7カ国8地域で教育文化支援活動を行っています。

カンボジア | 1991年～
ラオス | 1992年～
ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ | 2000年～
アフガニスタン | 2001年～

ミャンマー | 2014年～
ネパール | 2017年～
タイ | 1984年～
日本 | 1995年～



Thailand

タイ

スラムと、移民・少数民族居住地域での教育支援

タイでは4月から新型コロナウイルス感染症の第3波が拡大し、8月には1日の感染者数が過去最大の23,000人を超え、政府の規制が強化されました。学校も長期間休校し、子どもたちの学びへの影響が懸念されます。その中で、2021年は367人の奨学生に奨学金を授与しました。また、移動図書館活動は活動場所の変更や人数制限などの措置を講じて継続。年間で2,093人が活動に参加しました。



実績
図書館活動参加者:
2,093人
奨学金支給者
367人



事業

1. 教育の機会改善事業

中高校生合計348人(バンコク26人、バヤオ県137人、ターク県185人)と大学生19人の合計367人に奨学金を授与しました。奨学金事業は、毎年2月に対象3地域の家門訪問を実施しますが、昨年に続きコロナ禍で奨学生の選定に遅れが出ました。前期・後期の奨学金授与式をバヤオ県とバンコクの2カ所で開催しましたが、ターク県の8カ所の大きな学校は野外病院として使用されたため、同時期に授与式を開催することができませんでした。今後、必要な準備ができ次第、学校と連携して、学校から奨学金を授与する予定です。

2. 移動図書館を通じた読書推進活動

4月以降、新型コロナウイルス感染拡大第3波の影響により、学校が休校になりました。移動図書館活動を一時中断した時期もありましたが、7月から9月にかけては、クロントイスラムの図書館を中心に読書推進活動を実施しました。感染者数が減少した10月から12月は、政府の規制に従って、参加人数を50人以内に制限するな

どの対応を取りながら活動を継続しました。
・バンコクのスラム地域と、バンコク郊外のミャンマー人が多く住むサムットサーコーン県とサムットプラカーン県を対象とした今年度の移動図書館活動への参加者数は合計2,093人でした。
・新型コロナウイルス感染予防のためのマスクやアルコール、生活必需品等の配布も行いました。



シーカー・アジア財団の職員
*タイでの活動は、シャンティの元タイ事務所で、現在は現地法人のシーカー・アジア財団(SAF)が行っています。シャンティとはパートナーとして事業運営における連携を行っています。

事務局長メッセージ



シーカー・アジア財団
事務局長
ナリラット・
ターンジャランバムルンスック

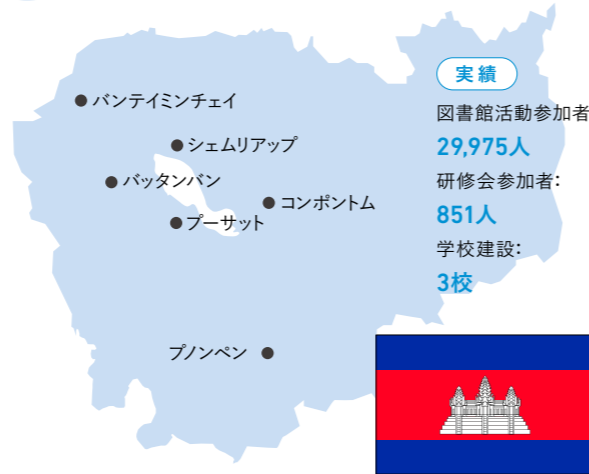
タイでは4月以降、新型コロナウイルスの感染者が急増し、8月には感染者数が過去最多の23,000人を超えました。タイ政府は規制策を強化し、人々の生活や経済に大きな影響が出ています。教育分野では、政府から学校や幼稚園の休校命令が出され、オンラインでの授業が行われるようになりました。シーカー・アジア財団の活動もこの影響を受け、移動図書館事業の活動が一時中断し、年間の活動回数も例年通り開催することが困難となり、奨学金授与にあたって人数制限や担当教員に授与を依頼するなどの対応を取りました。コロナ禍でスラム住民や周辺国の移民労働者などが職を失い、貧困問題が深刻化してきていますが、引き続き、教育文化支援を通して彼らを支えていきたいと思っています。

Cambodia

カンボジア

事務所開設30周年

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、すべての学校が3月から11月まで閉鎖されました。昨年から続く長期の学校閉鎖によって失われた子どもたちの学習機会を取り戻すには、時間がかかる見込みです。この間オンライン学習が提供されましたが、約半数の子どもたちがアクセスすることができませんでした。学校再開後は教室内の人数を制限しており、子どもたちは週に3日登校しています。



事業

1. 学校建設

オンラインツールを活用したモニタリングを取り入れ、小学校3校を建設しました。支援校では、校舎やトイレの維持管理研修も実施しました。

2. コミュニティ学習センター運営支援

コミュニティ学習センター(CLC)を運営する地元住民の要望に応じ、マスクやアルコールなどの感染対策備品を購入し、配布しました。感染対策をしながら移動図書館活動も実施し、102人が参加しました。CLC運営委員会を対象とした資金調達研修も実施しました。

3. 幼児教育の質の改善

事業対象幼稚園のベースライン調査を実施し、教室環境改善のための家具や教材などを配布しました。また、教育省や教育関係者で結成されたタスクチームと協働し、3種類の教員用ガイドブックの作成に取り組みました。オンラインツールを活用し、日本の保育士・幼稚園教諭による技術指導も実施しました。

その他

昨年開設した電子図書館に、電子絵本、読み聞かせ動画、非識字者向けの音声動画を追加しました。教育施設の閉鎖により、学びの機会が減った子どもたちや大人がさまざまなおはなしに触れられるよう、環境を整備しました。



プノンベン事務所職員



バタンバン事務所職員

所長メッセージ

カンボジア事務所
 所長
 加瀬 貴



2021年、カンボジア事務所は設立30周年の節目の年を迎えました。残念ながら皆さまにカンボジアまでお越しいただくことはできませんでしたが、12月にはオンラインで30周年記念イベントを行いました。

コロナ禍により現場での活動を行うことが難しくなったことから、活動の一部が延期することもありましたが、オンラインでの活動も取り入れるなどして、学校建設、コミュニティ学習センター事業、幼児教育の質の改善事業を継続的に実施することができました。

2022年は、カンボジアの今に向き合い、伝統文化を大切にしながら、そしてSDGsにある「誰一人取り残さない」という目標のもと、教育文化支援を続けていきたいと思っています。

Laos

ラオス

コロナ禍でへき地の子どもたちの学びを支える

水際対策がとられていたにもかかわらず、ラオスでは2021年後半から感染者数は10万人を超え、学校が休校になりました。このため、活動地に行くことができなくなるなど、シャンティの活動も制限を受けました。しかし、特に農村部における子どもたちの学びを支えるため、計画を調整しながらできる限りの支援活動を継続しました。



事業

1. 学校建設

- ・2019年に建設した小学校2校で、完工1年後検査および1校のトイレの8か月後検査を実施しました。
- ・2020年に建設した小学校2校で施工80%検査および100%検査を行いました。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により2021年は建設ができない状況でした。2022年建設予定の3校の現地調査を行い、建設会社の選定と住民による建設準備を支援しました。

2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- ・絵本1タイトル1,200冊の出版、紙芝居1タイトル125冊の再版を行いました。
- ・3月から4月にかけてルアンパバーン県の10校において移動図書館活動を実施しました。610人の児童と41人の教員が参加し、計492冊の図書が貸し出されました。
- ・エプロンシアター4タイトルを作成しました。

3. 複式学級運営改善事業

- ・ルアンパバーン県内2郡の学校で研修を受講した137名の教員の授業観察を行い、教員への助言を行いました。
- ・教育スポーツ省に対し「複式学級運営の手引き」の承認申請を行い、11月には同手引きの正式承認のための会議に参加しました。
- ・ルアンパバーン県内2郡において複式学級のフォローアップ研修(教員研修)を実施し、各郡より教員それぞれ30人、計60人が参加しました。



ラオス事務所職員

所長メッセージ

ラオス事務所
 所長
 玉利 清隆



ラオスでは2021年後半から新型コロナウイルスの感染が拡大し、各地でロックダウンが実施されるなど、人々の生活や仕事に大きな影響を及ぼしました。小学校も多くの地域で9月からの新学期が始まらないまま年を越す結果となりました。政府はオンラインやテレビなどを使用した児童の自宅学習を奨励しましたが、農村部ではこれらの手段を用いた学習を行うことができず、彼らの学習達成度への影響が懸念されています。シャンティの職員も現場の学校に行けず、計画通りの活動ができない状況が続きました。しかし年末から新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあり、学校再開の動きも出てきたことから、今後は感染対策を十分に行いながら、コロナ禍でより厳しい状況におかれた児童や教員へのサポートを再開していきたいと思っています。

Afghanistan

アフガニスタン

絵本や図書館が子どもたちの唯一の希望に

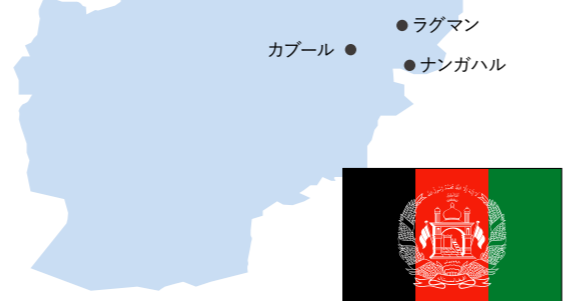
4年ぶりの深刻な干ばつや政変の影響を受け、国民の半数以上が食料難に陥る中、子どもの餓死、児童労働、物乞い、早婚、人身売買の増加などが報告されました。

8月の政変以降、中学・高校の女子生徒は通学が許可されず、学びから閉ざされた状況です。

治安不安と新型コロナウイルス感染拡大が続く中、職員一丸となって教育文化支援と緊急人道支援を継続しました。

実績

図書館活動参加者: 33,973人
研修会参加者: 97人



事業

1. 子どものための

図書館普及にむけた基盤整備事業

- ・ナンガハル州にある大規模女学校(小・中・高校)でモデル学校図書館1棟の建設を着手しました。2022年の竣工後は、生徒約5,700人と教員154人及び周辺地域の子どもや教員の利用を予定しています。
- ・図書館普及のマスタートレーナー10人への研修を実施しました。
- ・学校図書館ガイドラインを最終化しました。
- ・コロナ禍での図書館活動啓発キャンペーンとして、国内全土でのラジオを通じたおはなし読み聞かせと、カブール、ナンガハル、ラグマン州の学校計18校で図書の出貸サービスを中心とした移動図書館活動を行いました。(延べ5,575人の児童が参加)

2. 子ども図書館の運営

ナンガハル州で運営している子ども図書館は、約10か月間計187日間開館しました。年間利用者は25,749人(うち53%は女子)、1日あたり平均137人が利用しました。利用者の28%は孤児や

元難民、国内避難民、障がいのある子どもなど脆弱性の高い子どもたちでした。図書活動に加えて、手芸や縫製教室、学校に通えない子どもたちの特別学習教室、月例イベントなどを開催しました。

利用者の声を紹介。「僕は、子ども図書館があるおかげで、将来のことを少し明るく考えることができている。子ども図書館は僕や僕以外の子どもにとっても本当に大切な場所です。日本の皆さんに思っていたか感謝でいっぱいです」

3. 絵本・紙芝居出版

2020年に制作開始した児童図書5タイトル(絵本4タイトル、紙芝居1タイトル)を教育省の許可を得て2021年に出版し、小学校175校、公共図書館12館に配布しました。さらに2021年に児童図書3タイトル(絵本2タイトル、紙芝居1タイトル)を制作しました。

所長メッセージ

事務局長 兼
アフガニスタン事務所 所長
山本 英里



人道危機に直面する人が、人口の半数以上といわれるアフガニスタンでは、緊急人道支援が急務となっていました。しかし、4月に米軍の無条件撤退が発表されると、国土の半数以上を制圧していたタリバンが勢力を強め、主要都市を次々と制圧。8月15日には首都カブールを手中に収め、事実上旧政権は崩壊しました。全国を制圧したタリバンは暫定政権を掲げたものの、恐怖政治に不安を感じる人々で国内は混乱し、多くが避難民として国内外へ退避を強いられました。シャンティでは職員及び関係者の安全確保を第一に、教育文化支援、緊急人道支援を継続するため職員が一丸となって取り組んできました。また、日本国内においても他団体、他機関と連携しながら退避してきたアフガニスタン人の側面支援を行いました。引き続き、現地の治安情勢を見ながら、子どもたちの命と教育を守るための活動を継続します。

Myanmar

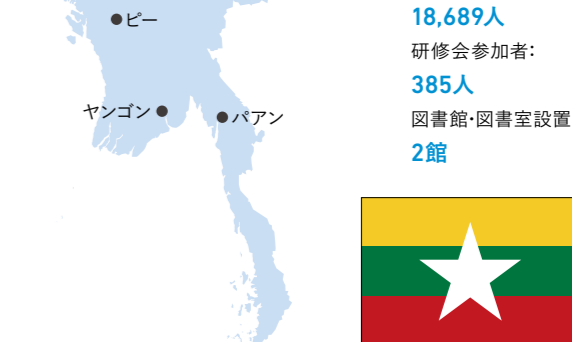
ミャンマー

クーデター下で教育文化支援活動を継続

軍事クーデターと新型コロナウイルス感染拡大により、子どもたちは2年近く学びの場を失うことになりました。予定通り6月に新学期が開始したものの、多くの子どもたちと教員は学校に戻りませんでした。2014年から始まった図書館活動は徐々に根付き、今後のさらなる発展に向けた取り組みを準備しているところでしたが、クーデターにより中断を余儀なくされた活動もありました。そうした中でも計画内容を見直しながら、目の前の実施可能な活動を着実に進めました。

実績

図書館活動参加者:
18,689人
研修会参加者:
385人
図書館・図書室設置:
2館



事業

1. 学校建設

- ・2020年から建設中だった2校が完成しました。
- ・施設維持管理研修や学校図書館研修を実施し、40人が参加しました。

2. 学校図書館基盤整備事業

- ・モデル学校図書館を2校に設置し、各館に966冊ずつ絵本や紙芝居を配架しました。
- ・学校図書館研修パッケージを10人が受講し、新たに作成したトレーナー養成研修パッケージを教員や学校長ら44人が受講しました。

3. 東バゴー地域における読書推進活動

- ・14の公共図書館と協力し、オンライン読み聞かせ活動を行いました。
- ・活動の継続が困難となり、7月末をもって中止しました。

4. コミュニティリソースセンター(CRC) 事業

- ・カレン州内5村のCRCにて、運営研修や四半期会議等を実施しました。

- ・18,352人が利用し、7,325冊の絵本や書籍を届けました。
- ・移動図書館や学校図書館を用いて、5,092冊の絵本を届けました。



ヤンゴン事務所職員



ビー事務所職員



バアン事務所職員

所長メッセージ

ミャンマー事務所
所長
中原 亜紀



2月1日に起きたクーデターにより、これまで積み上げてきたものがあっという間に崩れていく状況を目の当たりにした1年でした。長い道のりをかけて活動がようやく根付き、理解者も増えて、子どもたちの教育、未来のためにこれからも共に頑張っていくつもりでいた矢先で、悔しさや怒りが込み上げました。しかし一番辛い思いをしているのはミャンマーの人たちです。

新たな難民がタイ側に流出する事態にもなり、始まったばかりの国境での事業を継続できない悔しさはありますが、職員たちは諦めず、今私たちにできる活動や支援を止めずに行うことが必要だという姿勢を見せてくれました。教育文化支援活動を継続し、人づくりのために少しでも貢献することが、今私たちがやるべきことだと思います。政情が不安定な中で活動を継続することは簡単なことではありませんが、活動を通じてミャンマーの人々に寄り添ってまいります。

Myanmar (Burma)

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

感染対策を講じながら図書館運営を継続

タイ国内で新型コロナウイルスの感染が拡大し、難民キャンプ内でも感染が確認されたことから、職員のキャンプへの入域が制限され、教育施設が閉鎖されました。コミュニティ図書館も閉鎖されたため、個人や団体へ本を貸し出すなどの工夫をしました。開館時には、感染対策を講じながら図書館サービスを提供しています。ミャンマーでの軍事クーデターにより本国帰還のプロセスが止まり、住民たちの不安は増えています。

実績

図書館活動参加者：
118,802人
研修会参加者：
465人



事業

1. コミュニティ図書館運営

- タイ国内の難民キャンプにおいて、2000年からコミュニティ図書館の運営支援を開始し、2021年の年間利用者数は7キャンプ15館全体で118,802人(子ども75,582人、成人43,220人)でした。新型コロナウイルス感染予防物資を、各図書館に配布し、検温や手洗い、十分なスペースを確保するなどの感染対策を講じながら、図書館を開館しました。
- 図書館15館に、大人用書籍7,350冊(新聞、雑誌、小説など)、子ども用の絵本5,393冊(カレン語、ビルマ語)、参考書2,220冊を配架しました。
- 図書館閉鎖中を含め、小学校や中学校など55校とキャンプ内で活動する30団体に、移動図書館を使って本を貸し出しました。
- 図書館の掲示板やパソコンを通して、新しく配架された本や新型コロナウイルスに関する情報などを図書館の利用者に向けて提供しました。
- 会議とモニタリングを実施し、計画や活動内容、課題を共有し、サービスの向上に努めました。また、読み聞かせのスキルやレクリエーションなどを共有し、図書館活動の充実を目指しました。



ミャンマー(ビルマ) 難民事業事務所職員

副所長メッセージ

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所
副所長
ジラポーン・ラウィルン(セイラー)



新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、コミュニティ図書館を一時的に閉鎖しました。この期間中は、図書の貸し出しや移動図書館などの方法を活用することで、利用者に読書の機会を継続して提供しました。再開後は、図書館関係者と密接に連携し、感染対策を徹底しながら開館しています。

さらに今年は、ミャンマー本国で軍事クーデターが起こったため、難民キャンプに住む人々の本国帰還のプロセスが止まってしまいました。彼らの不安や恐怖、ストレスは日ごとに増えています。難民キャンプに住む人々や、国境地域に住む人々への支援の必要性が、これまで以上に高まっています。私たちはこれからも、国境地域に住む人々へできる限りの支援を届けていきます。

Nepal

ネパール

コロナ禍だからこそ、質の高い教育を目指して

新型コロナウイルスの感染拡大、特にデルタ株の流行により、ネパールでは2021年9月まで学校の休校が続きました。その後再開したものの、学習時間の不足とそれに伴う学習達成度の低下が懸念されており、児童婚や児童労働も増加しています。移動制限やロックダウンの影響を受けながらも、教育の質の向上を目指した3つの事業を継続し、着実に成果を積み上げています。

実績

絵本・紙芝居出版：
3タイトル2,240冊
研修会参加者：
1,746人



事業

1. コミュニティ図書館能力強化事業

図書館1館が開館し、図書館サービスと学習プログラムを提供しています。学習プログラムとして、祖父母から昔ばなしを聞き取って子どもたちが絵本を作るワークショップを実施し、1タイトルの絵本を1,000部出版しました。来年建設が完了する予定の3館について、住民の代表者からなる図書館運営委員会の能力強化研修を実施しています。

2. 先住民族地域における地域学習のカリキュラムの開発・普及事業

先住民族であるチェパンの人々が多く居住するマクワンプル郡ラクシラン郡の全52校を対象に、6年生から8年生がラクシラン郡について学ぶための教科書の開発、教員の研修を行い、対象校の各教室に図書コーナーを設置しました。本事業は全国村長協会で、教育部門の最優秀事業として表彰されました。また、オンラインで日本の専門家とネパールの作家、イラストレーター、編集者といった参加者をつないで、紙芝居制作研修を実施しました。

3. 国連世界食糧計画(WFP)と連携した「学校給食改善事業(栄養教育活動)」

ヌワコット郡の全440校を対象とした本事業で、地産地消に関する紙芝居と食べものの消化に関する紙芝居2タイトル、健康に必要な栄養素が摂れる食品の量をピラミッド型に図式化したポスター、栄養教育についての教員ガイドブックを開発し、教員研修を実施しました。また栄養教育に関するローカルラジオ番組も放送しました。



ネパール事務所職員

所長メッセージ

ネパール事務所
所長
三宅 隆史



2021年もコロナ禍による全国ロックダウンが4月から6月まで続き、学校が閉鎖され、子どもたちの学ぶ機会が奪われるとともに、2020年から開始した3つの事業の進捗が遅れました。「コミュニティ図書館能力強化事業」では、1館の図書館建設が完了し、図書館の利用者および学習プログラムの参加者は新図書館建設前と比べて6倍の664名に増加しました。緊急人道支援については、新型コロナウイルス重症患者の集中治療に必要な人工呼吸器やICUベッド等の医療機器を4つの病院に供与しました。また4つのコミュニティ図書館を通じて生活困窮者に対する栄養価の高い食料の配布を行いました。さらに地域学習事業の対象校のうち15校に対して学校再開のための感染予防物資を供与し他、対象校の病院にワクチン保存用の冷凍庫を供与しました。

Japan

日本

在留外国人への新型コロナウイルス緊急支援を開始

長引くコロナ禍は、日本に住む外国人の不安定な生活を直撃し、多くの方が苦しい生活を迫られています。シャンティでは、外国人が多く居住する豊島区において、地域の団体と連携した外国人の生活基盤の底上げを目指す緊急包括支援を開始し、食料配布や相談会開催をはじめとする支援を実施しました。また、2020年から開始した外国ルーツの子ども居場所づくり活動も、オンラインで継続しています。

実績

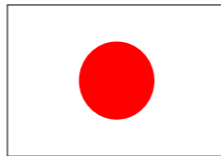
包括支援事業参加者:

310人

オンライン居場所参加者:

459人

●東京・豊島区



事業

1. 在留外国人への緊急包括支援

- 5月より東京都豊島区において、新型コロナウイルス緊急対応のための生活支援・法的支援・外国人の社会的包摂を軸とする包括支援を、社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会、弁護士法人東京パブリック法律事務所、地域の支援団体と連携し開始しました。
- 豊島区各地で外国人向けフードパントリー・相談会を10回開催し、310世帯へ食料配布と支援ニーズ把握を行いました。このうち、更なる支援が必要とされる世帯には、弁護士や社会福祉協議会、コーディネーターによる個別支援を実施しました。
- 現場での支援を担当する外国人のコーディネーター3名と契約し、地域で支援者の役割を担える外国人として育成し、外国人が支援される側に留まらない環境を目指しています。
- 連携団体のほか、行政の担当者、地域の支援団体が参加する支援連携会議を11回開催し、地域における外国人支援ネットワークの構築を進めています。

2. 外国ルーツの子どもの居場所づくり

- 外国ルーツの子どもの居場所づくり活動を、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークと協働で、2020年5月に開始しました。長引くコロナ禍において、オンラインでの活動を継続しています。
- 2021年は51回の「居場所」を開催し、のべ459人の子どもが参加しました。大学院生の運営スタッフ、ネパール人と中国人の大学生通訳スタッフが毎回の活動を企画・運営しています。
- 外国ルーツの年長者に進路を相談できる「進路相談会」や在留資格についてのセミナーを開催し、将来像の構築や安定した在留に向けた知識の向上を図っています。



地球市民事業課職員

課長メッセージ



地球市民事業課
課長
市川 斉

日本では、2019年にこれまで一部のみに認められていた単純労働への従事を認める「特定技能ビザ」が新設され、2020年には日本に滞在する外国籍の人は293万人と過去最高を更新しました。外国籍の人は不安定な在留資格や日本語能力の制限などから、低賃金の非正規雇用が多く、困窮した生活状況に置かれがちで、公的支援へのアクセスが難しい状況に置かれています。その上、地域との繋がりが乏しいため地域の共助制度からの疎外・孤立も顕著です。シャンティが活動を行う豊島区には27,023人の外国籍の人が居住し、その人口割合は9.4%、全国の市区町村別で8番目に多い場所ですが、国際交流協会のような公的な支援拠点がありません。行政や地域の支援団体と連携しながら、シャンティのミッションにもある「共に生き、共に学ぶ」姿勢を大切に、多文化共生社会の実現に向けて取り組む意義は高いと考えています。

緊急人道支援

災害や紛争発生直後の緊急期において、生活するために必要な生活物資を配布します。また、子どもたちの学びを守るため、教育支援活動にも取り組んでいます。長期の避難生活においても基本的な人権を守るための国際基準に則った活動を行っています。

海外での活動

ネパール

新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急医療物資支援

6月より開始した新型コロナウイルス対策緊急医療物資支援事業を10月に完了しました。

隣国インドでの新型コロナウイルスの感染拡大やデルタ株の流行を受け、医療体制が逼迫していたネパールの4つの病院に新型コロナウイルス重症患者の集中治療のための医療機器と医療物資を供与しました。供与した物資は、集中治療室用ベッド、医療用モニター、人工呼吸器、救急カート、酸素ボンベなどです。



供与した医療機器のモニタリングの様子

アフガニスタン

新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急人道支援

3月から約5カ月間、新型コロナウイルスの感染予防と合わせて、直面する食料危機に対応するため、ナンガハル県およびクナール県において、1,380世帯を対象に緊急の食料配布や感染予防の啓発活動を実施しました。

国内避難民・生活困窮者への緊急人道支援

8月より、クナール県において、国内避難民(IDP)や生活困窮者への食料や新型コロナウイルス感染予防の衛生用品を配布しました。また、女性の保護課題に関して女性だけでなく、男性を含めた地域全体の認識を向上させるための啓発を行う支援事業を開始しました。

8月のタリバンによる政変の後には、一時事業を中断しましたが、現地職員による情報収集・暫定政権との調整のほか、他のNGOの動向なども踏まえ、現在は再開しています。今後は、現地スタッフの安全対策を講じながら、実施可能な事業内容で支援を継続していきます。



感染予防啓発のために作成したポスター



食料を受け取るアフガニスタンの人々

ミャンマー・タイ国境

避難民らに対する物資配布支援および緊急初動調査

5月から7月まで、民間募金やジャパン・プラットフォーム(JPF)の資金を活用し、タイ北部のミャンマー国境沿いを拠点として、ミャンマーの国境付近における軍事クーデターに伴う戦闘や空爆の影響を受けた避難民らのニーズ調査を行うほか、食料などの緊急物資配布を実施しました。調査の結果から、避難生活が長期化する中で、不衛生な生活を強いられている状況や、子どもたちが教育の機会にアクセスできない状況などが確認されたことから、マスク・消毒液などの衛生用品や、文房具などの配布を実施しました。

避難民らに対する緊急食料配布支援

8月から12月まで実施した調査で緊急的なニーズが確認されたタイ国境付近の州に、食料の配布を行っているほか、12月からは、戦闘・空爆によりタイに逃れてきた避難民の支援のため、タイ国内の仮設シェルターにおいて、飲料水・毛布などの緊急物資の配布を行っています。



教育支援物資を受け取る子どもたちの様子



緊急物資の飲料水を配布準備している様子

国内での活動

令和3年8月豪雨

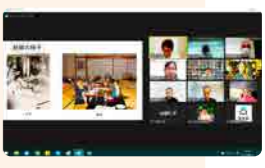
8月11日ごろから続いた大雨により、佐賀県などで水害が発生しました。これに際し、職員を派遣し、佐賀県武雄市を中心に被害状況の調査、物資配布などを兼ねたサロン活動を行いました。このほか、被災した子育て世帯向けに週末の子どもの居場所作りや、水害被害にあった放課後デイサービスや幼稚園などの事業所への蔵書支援も行いました。

防災・減災の活動

日ごろからの防災・減災活動として、全国的な宗教施設および宗教者の防災・減災ネットワークの構築に取り組み、「宗教施設の防災・減災」を切り口に勉強会を4回開催しました。今後も、地域住民や自治体との連携などにより、災害時に対応できる宗教施設を増やす活動を継続していく予定です。



戸別訪問活動の様子



防災・減災オンライン勉強会の様子



絵本を届ける運動

Campaign to Deliver Picture Books

日本の絵本に、現地の言葉に翻訳したシールを貼り、ジャンティが支援するアジアの子どもたちに届けています。年代問わず、個人でも団体でも気軽にご参加いただける「絵本を届ける運動」は、1999年に開始してから2021年で22年目を迎えました。

コロナ禍でも参加の輪が広がりました

15,682冊がアジアの子どもたちの手元へ

「絵本を届ける運動」を通して集めた絵本は、ジャンティが支援する活動地の子どもたちの手元に届けられます。1999年に開始したこの活動も、毎年多くの方々にご参加いただき、22年目を迎えました。これまでにこの運動を通して届けた絵本は36万冊以上にのぼります。

2021年は、カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー、タイ国境ミャンマー(ビルマ)難民キャンプへ、クメール語、ラオス語、バシュトゥー語、ビルマ語、カレン語に翻訳した絵本、合わせて50タイトル・15,682冊を届けることができました。

活動地に送る絵本のテーマ

届ける絵本は、現地でジャンティが取り組んでいる活動内容や子どもたちの年齢、文化的背景などを考慮し、絵本に詳しい図書館員、出版社の皆さまよりアドバイスをいただきながら選書しています。常に子どもたちからの人気が高い動物や乗り物の絵本に加え、2021年は生物の進化について学ぶことができる科学絵本や、平和・戦争について考えることができる絵本を届けました。

気軽に参加いただける国際協力として

2021年はのべ14,127人の個人、417組の企業・団体の方々に参加いただきました。絵本への翻訳シール貼りは、年齢を問わず簡単に参加できる活動として好評で「現地の子どもの笑顔をお願いして作りました」「親子で作業をし、心温まる時間となりました」などの感想が届きました。

実績

参加数	15,682冊
	1,608件
タイトル数	50 タイトル
出版社数	18 社

2022年の
ラインナップは
こちら▶



(上) 小学校での翻訳絵本づくり
(下) 難民キャンプに届いた絵本

CRAFT AID

クラフトエイド

[フェアトレード事業]

アジアの女性たちが時間と手間をかけて丁寧に手作した物を販売するジャンティのフェアトレード事業です。現地のパートナー団体と共に、刺繍や織りなどの代々伝わる伝統文化や技術を取り入れた商品を製作し、ご紹介しています。

作り手たちの想いをのせて、つながりを強化

コロナ禍、政変。作り手たちの今

2021年は国内外における新型コロナウイルスの感染拡大や、活動地の情勢悪化により、商品の入荷遅延や生産中止、販売イベントの中止などの影響を受けました。

タイやラオスでは、都心部から離れた山岳地帯に暮らす少数民族の作り手が移動制限により、生地や糸などの商品製作に必要な材料の入手が難しくなりました。また、カンボジアでは新型コロナウイルス感染によって縫製所の閉鎖が相次いだほか、アフガニスタンやミャンマーでは情勢悪化により、日本への商品の出荷が制限されました。

しかし、このような厳しい状況の中でも、作り手たちは、家事や農作業の合間に刺繍や織物を進め、28の新しい商品の販売を開始しました。日本国内では、SNSを使った情報発信を継続して行うことで、オンラインストアを中心に1,326件のご注文をいただき、472人の方が新たにご購入されました。また、36の取扱店が商品を販売し、百貨店での期間限定販売を2回開催、海外の作り手とオンラインでつないだ初めてのイベントでは、197人にご参加いただきました。

オンラインで広がったつながりを、さらに大きく

2021年は、海外の作り手と密に連絡を取り合うことで、厳しい状況の中でも、より強い協力体制で進めることができた1年でした。また、対面での販売活動が制限される中でも、SNSやオンラインストアを通して、フェアトレードの輪が広がった1年でもありました。今後もこの広がりを大切に育てていきたいと思えます。

実績

取扱	36 店
期間限定販売	2 回
ご支援数	1,326 件

作り手たちの
手仕事を
ご覧ください▶



(上) ミャンマー/バコック手織りコースター
製作風景 (写真提供) dacco.myanmar
(下) タイ/リス族重ね縫い2WAYバッグ



アジアの 図書館サポーター

[継続的なご寄付による支援]

アジアの子どもたちに本を読む機会や、安心できる場所を届けるため、継続的にご支援いただくプログラムです。皆さまのご支援が子どもたちの生きる力を育みます。

子どもたちを支えるため、継続的な発信を

新たに449名の方がアジアの図書館サポーターに新型コロナウイルス感染拡大の影響下でもより多くの方に活動地の様子を知っていただけるよう、全国の図書館でのパンフレット配架や、年間を通してSNSでの発信にも取り組み、多くの方にご支援いただきました。8月からはクラフトエイドと協力して、カンボジアの手織り布を使用したオリジナルバッグのプレゼントキャンペーンを実施し、大変好評いただきました。また、年に一度お届けしているアジアの子どもたちからのメッセージカードは、フォトスタンドとしても使用できるデザインで作成しました。

幅広い活動の支えとして

活動国を限定しないアジアの図書館サポーターの皆さまからのご支援は、より厳しい状況にある活動地の子どもたちのための図書館整備や学校建設、読書推進活動、教員・図書館員研修など、本を通じた教育文化支援に活用しています。個人の皆さまからの寄付総額のうち、約3割がアジアの図書館サポーターです。アジアの図書館サポーターの皆さまの継続的な毎月のご支援は、長い時間がかかる教育文化支援を力強く支えています。

実績

新規サポーター **449**名

ご寄付に関する情報は
こちら▶



メッセージカード
カードデザイン: aurinco (アウリンコ)

イベント開催 | 周年イベントが続いた1年

イベントを11回開催し、1,188人に参加いただきました。ミャンマー(ビルマ)難民事務所の20周年、カンボジア事務所の30周年、ジャンティの40周年と、周年のイベントが続いた1年でした。コロナ禍のため人が集まるのが難しく、活動地の現地職員や関係者をつないでオンラインで開催しました。イベントの様子はジャンティのYouTubeチャンネルからご覧いただけます。

講演 | 企業、学校でのオンライン講演が増加

39回、1,829名の方に向けて講演を行いました。学校からは12件、企業からは13件のご依頼をいただきました。コロナ禍のためほとんどがオンラインでの実施となりましたが、普段は会社で勤務されている方が在宅勤務になり、ご家族と一緒に参加されるなどオンラインならではの柔軟性が見られました。



もので寄付する プロジェクト

読み終えた本や使わなくなったブランド品、貴金属、商品券や書き損じはがきなどをお譲りいただくと、提携企業が査定して、買取額が寄付となります。

おうち時間が増え、ご協力も増えています

コロナ禍前と比べて、イベント等で「もので寄付するプロジェクト」をご案内する機会が減少したため、2021年はジャンティの他プログラムにご参加いただいた皆さまにチラシや専用封筒でご案内する機会を増やしました。

また、年末年始、引っ越しや片付けなど各シーンに合わせてSNSや雑誌に掲載し、おうち時間が増えているなかでご自宅からできるボランティアとして多くの方にご参加いただきました。

実績

本・CD・ゲームソフト	505 件	合計	1,178 件
商品券・金券	232 件	総額	3,902,054 円
それ以外の家に眠るお宝	441 件		

回収品の例

本・CD・ゲームソフト

- 書籍 ●コミック
- CD ●DVD/Blu-ray
- ゲームソフト/ゲーム機

商品券・金券

- 全国共通商品券
- ビール券/お米券
- 図書券/図書カード
- 書き損じはがき
- 未使用の切手/はがき

それ以外の家に眠るお宝

- 金・プラチナ・貴金属・宝石
- ブランド品 (バッグ・食器・時計)
- 古銭/古紙幣/金貨・貨幣
- カメラ・レンズ
- 楽器 (ギター、管楽器) など



回収品の例



書き損じはがき

実績

メディア掲載 **162** 媒体

講演 **39**回 / **1,829**人

イベント開催 **11**回 / **1,188**人

メディア掲載 | ミャンマーやアフガニスタンに関するメディア掲載が増加

テレビ、新聞、雑誌など162媒体で掲載されました。内訳は、新聞95、雑誌24、テレビ10、ラジオ1、その他ネットメディアなど32媒体です。ジャンティが活動を行うミャンマー、アフガニスタンでの政変を受けて、現地の様子や活動の状況、暮らす人々の声を取りいただくことが増えました。

掲載先(一部): NHKBS1 国際報道2021 / NHK「日曜討論」/ NHK NEWS おはよう日本 / NHKニュースウォッチ9 / NHK総合・BS4K「週刊まるわかりニュース」/ NHK WORLD NEWSLINE IN DEPTH / テレビ東京 ワールド・ビジネス・サテライト(WBS) / 朝日新聞/読売新聞/毎日新聞/東京新聞/中外日報/仏教タイムス/STORY/ハルメク/AERA/ジュニアエラなど

ご支援・ご協力・連携実績

2021年も、個人、団体からのご寄付に加えて、教育環境改善のための連携事業を実施しました。さまざまなご支援・ご協力を通して多くのみなさまに活動を支えていただいています。

ご支援・ご協力 (掲載数字: 2021年1月～12月)

アジアの図書館サポーター (マンスリーサポートプログラム)

新規申込	449人
合計	2,509人 *2021年12月末時点

寄付

個人からの寄付	7,616人 / 216,515,502円
団体からの寄付	1,776団体 / 209,723,583円

ボランティア・インターンシップ

インターンシップ受け入れ: 東洋大学国際学科

事業サポート課	翻訳ボランティア	3人
クラフトエイド	事務所ボランティア	5人
東京事務所インターン	広報・リレーションズ課	4人

プロボノ・協力者

aurinco(アウリンコ)さん
伊藤 弘泰さん
江藤 孝治さん
川畑 嘉文さん
木村 沙弥香さん
きよはら えみこさん
シュルツ 八坂 由美さん
高田 亮さん
高橋 明日香さん
沼田 智美さん
藤原 千尋さん
保田 卓也さん
松岡 純平さん
三上 悠里さん
安井 浩美さん
和田 元さん

事業連携

外務省「日本NGO連携無償資金協力」

ネパール

- ・ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業
- ・被災地、先住民地域における教育の質の改善事業

アフガニスタン

- ・子どものための図書館普及にむけた基盤整備事業

ミャンマー

- ・西バゴ地域での初等教育における読書推進事業
- ・ヤンゴン地域及びビー県内の教員養成学校及び現職教員研修施設への学校図書館に関する基盤整備化事業

ミャンマー国境

- ・ミャンマーカレン州東部および南部におけるコミュニティリソースセンターを通じた復興・再定住支援事業

国際協力機構 (JICA) 「草の根技術協力事業」

ラオス

- ・ラオス北部地域の教員養成校指導教官の能力強化を通じた、複式学級運営改善事業(草の根パートナー型)(第2年次)

カンボジア

- ・幼児教育カリキュラムに基づく「遊びや環境を通じた学び」実践のための基盤構築事業(草の根パートナー型)(第1期)

ジャパン・プラットフォーム (JPF)

アフガニスタン

- ・クナール県における国内避難民・帰還民への教育及び水衛生支援
- ・ナンガハル県及びクナール県における生活困窮家庭への食糧・衛生用品配布及び感染予防の啓発支援

- ・クナール県における生活困窮者への物資配布・衛生啓発及び女性の保護支援事業

ネパール

- ・ヌワコット郡におけるCOVID-19重症患者集中治療のための医療資機材供与事業

ミャンマー国境

- ・タイ国境ミャンマー難民支援における物資配布支援および緊急初動調査

- ・カレン州における国内避難民等を対象とした緊急食糧配布支援

日本

- ・佐賀県武雄市におけるサロン活動支援、放課後等デイサービス事業所の蔵書支援

国連世界食糧計画 (WFP)

ネパール

- ・ヌワコット郡における学校給食計画

後援

「絵本を届ける運動」「アジアの図書館サポーター」

- ・文部科学省
- ・公益社団法人 日本図書館協会
- ・公益社団法人 読書推進運動協議会

シャンティとは

シャンティは40年以上、アジアの国々で教育文化支援活動を続けてきました。「教育には人生を変える力がある」と信じ、地域の文化や対話を大切にしながら、図書館活動や学校建設、人材育成などを行っています。

シャンティの理念

共に生き、共に学ぶ

世界には、紛争や貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

使命

人間の尊厳と多様性を尊び「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和(シャンティ)な社会を目指します。

目指す姿

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

子どもたちが安心して学べる環境をつくるために

私たちが目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。そのためには「1. 学ぶための本や教材」、「2. 学びを届ける人」、「3. 安心して学べる場所」、そして「4. 学びと出会うための活動」が欠かせません。



2030年までの達成を目指す

「持続可能な開発目標 (SDGs)」

世界の国々が話し合い、2030年までに先進国、途上国を問わず、世界が取り組むべき17の目標として、2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択されました。私たちは「目標4. 質の高い教育をみんなに」の達成に向け、教育課題の解決のみならず、SDGsが掲げるさまざまな目標達成に向けた取り組みを行っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

シャンティが主に取り組む

「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標



組織概要

法人名：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

設立：1981年12月10日

社団法人登記日：1999年8月19日

公益社団法人移行登記日：2011年1月4日

顧問

足立 房夫	一般社団法人協力隊を育てる会 顧問
阿部 豊淳	宮城県・光寿院 住職
小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 理事長
川原 英照	熊本県・蓮華院誕生寺 貫主 認定特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長
白石 孝	荒川区職員労働組合 顧問 特定非営利活動法人日本ラオス子どもの未来 理事長
笹岡 賢司	静岡県・龍谷寺 住職

参与

鬼生田 俊英	曹洞宗 宗務総長
小林 昌道	大本山永平寺 監院
渡辺 啓司	大本山總持寺 監院

理事・監事

会長	若林 恭英	安楽友の会 代表、長野県・安楽寺 住職
副会長	神津 佳子子	株式会社KOZUstyle 代表取締役
副会長	三部 義道	もがみ地産地消エネルギー 代表、山形県・松林寺 住職
専務理事	岡本 和幸	上総自然学校 代表、千葉県・真光寺 住職
常務理事	有馬 嗣朗	あんでねっと事務局、山口県・原江寺 住職
常務理事	茅野 俊幸	(公財)庭野平和財団 理事、長野県・瑞松寺 住職
常務理事	秦 辰也	近畿大学国際学部 教授
常務理事	八木澤 克昌	シャンティ国際ボランティア会 常勤役員
理事	浅野 幸子	早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員
理事	竹俣 昭孝	(公財)全日本仏教尼僧法団 理事、東京都・大林院 住職
理事	東海 泰典	シャンティ東北 代表、宮城県・松源寺 住職
理事	直井 里子	京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師／映像作家
理事	早坂 文明	宮城県・徳本寺 徳泉寺 住職
理事	松永 寛道	静岡県・宗徳院 住職
理事	山本 英里	シャンティ国際ボランティア会 事務局長
理事	横澤 敬雄	長野県・東昌寺 住職
監事	中山 雅之	国士舘大学大学院グローバルアジア研究科 教授
監事	野中 茂	公認会計士(野中公認会計士事務所)

専門アドバイザー

天野 教之	天野医院 院長
大菅 俊幸	曹洞宗総合研究センター 講師
鎌倉 幸子	かまくらさちこ株式会社 代表取締役
高田 博嗣	NHKグローバルメディアサービス ニュース制作部 統括部長
手束 耕治	カンボジア宗教省仏教研究所 顧問
藤谷 健	朝日新聞社東京本社デジタル機動報道部長 兼 ジャーナリスト学校デジタル推進担当部長

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞(1984年)
 ソロプチミスト日本財団賞(1985年)
 外務大臣賞(1988年)
 毎日国際交流賞(1994年)
 東京都豊島区感謝状(1995年)
 防災担当大臣賞(2004年)
 兵庫県知事感謝状(2005年)
 第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)
 宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)
 ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)
 スポーツ庁長官感謝状(2019年)
 第14回かめのり賞 特別賞(2020年)
 第28回読売国際協力賞(2021年)
 第25回地球倫理推進賞(2021年)
 文部科学大臣賞(2021年)

参加ネットワーク一覧

国内

SDGs市民社会ネットワーク／NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS) [世話人]／
 NGO外務省定期協議会／NGO-JICA協議会[コーディネーター]／
 NGOと企業の連携推進ネットワーク／NGO-労働組合国際協働フォーラム／
 NGO非戦ネット[呼びかけ人]／市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCIS)／
 開発教育協会(DEAR)[理事]／紙芝居文化推進協議会／
 カンボジア市民フォーラム[世話人]／教育協力NGOネットワーク(JNNE) [事務局長]／
 国際協力NGOセンター(JANIC)／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会／
 ジャパン・プラットフォーム(JPF)／多文化としまネットワーク／
 多文化共生教育ネットワーク東京(Team-Net)／地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)／
 震災がつなぐ全国ネットワーク(農つな)／
 東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ) [副代表]／
 東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議[幹事団体]／
 日本アフガニスタンNGOネットワーク(JANN)／日本NPOセンター／日本図書館協会／
 日本ファンドレイジング協会／日本UNHCR-NGOs評議会(J-FUN)／
 庭野平和財団[理事]／防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)／
 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)／
 仏教NGOネットワーク(BNN) [副理事長、事務局長]／曹洞宗SDGs推進委員会／
 世界宗教者平和会議(WCRP)／アフガニスタン避難者受け入れコンソーシアム／
 JANIC・アフガニスタンワーキンググループ

海外

カンボジア

Cooperation Committee for Cambodia(CCC)／
 NGO Education Partnership(NEP)／カンボジア市民フォーラム／
 Japanese NGO Worker's Network in Cambodia(JNNC)

ラオス

International NGO Network／Japanese NGO Meeting(JANM)

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ

Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand
 (CCSDPT:難民支援事業調整委員会)

アフガニスタン

Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)

ミャンマー

Japan NGOs Network - Myanmar(JNN-Myanmar)

ネパール

Association of International NGOs in Nepal(AIN)

全体

Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education(ASPBAE)[理事]／
 The Asia Disaster Reduction & Response Network(ADRNN)

組織図

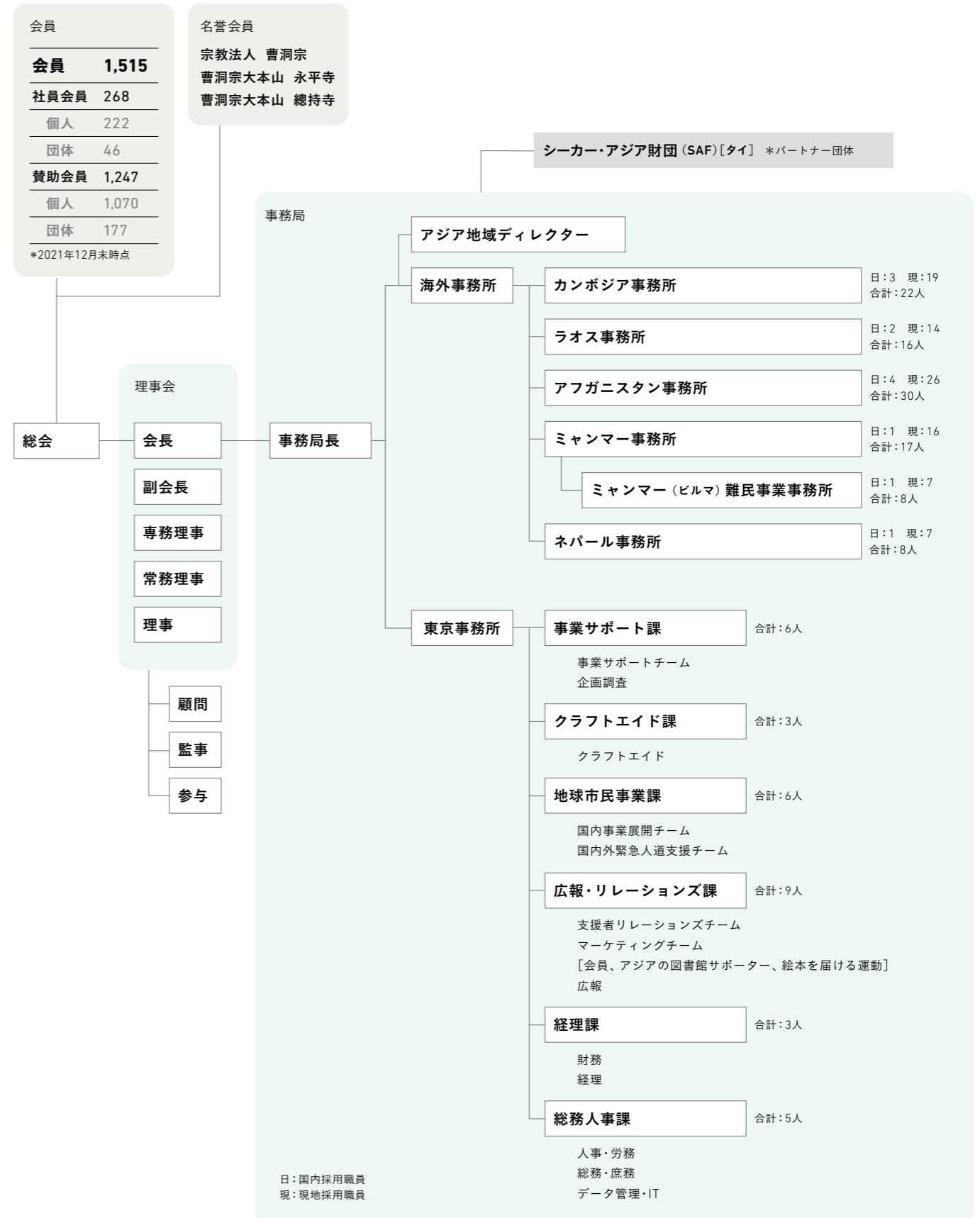
事務局員 131人

(SAF、インターン含まず)

国内採用職員 42人

現地採用職員 89人

*2022年4月1日時点



貸借対照表 2021年12月31日現在

資産の部 (単位:円)	
1. 流動資産 (現預金等)	70,430,986
2. 固定資産	
(1) 基本財産	50,000,000
(2) 特定資産 (特定預金)	516,455,862
(3) その他固定資産 (固定資産物品等)	6,042,766
固定資産合計	572,498,628
資産合計	642,929,614

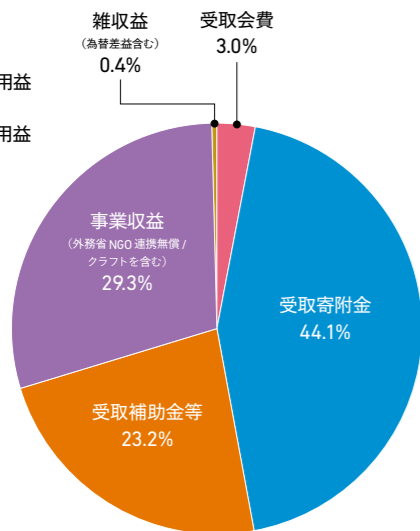
負債の部	
1. 流動負債 (預り金等)	91,994,405
2. 固定負債 (退給引当金)	26,104,704
負債合計	118,099,109

正味財産の部	
1. 指定正味財産	466,882,881
2. 一般正味財産	57,947,624
正味財産合計	524,830,505

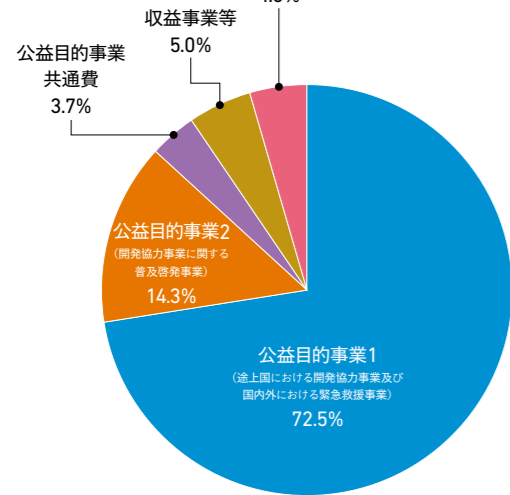
負債、正味財産合計	642,929,614
-----------	-------------

収益

基本財産運用益
0.0%
特定資産運用益
0.0%



費用

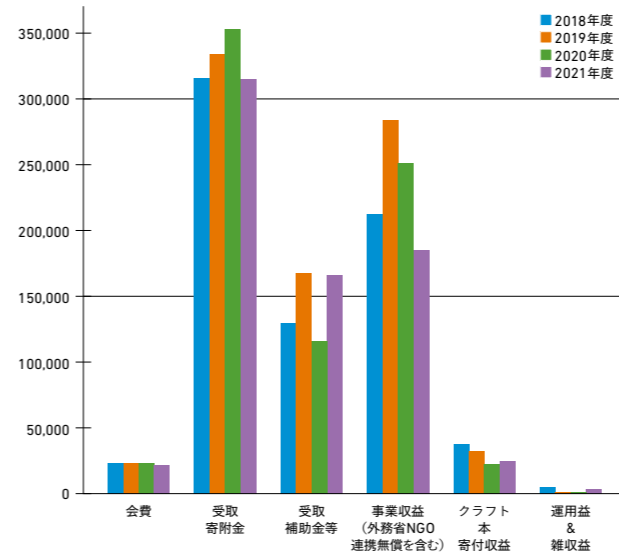


正味財産増減計算書 2021年1月1日から2021年12月31日まで

一般正味財産の部 (単位:円)	
経常増減の部	
1. 経常収益	
基本財産運用益	105,439
特定資産運用益	91,552
受取会費	21,457,000
受取寄附金	314,606,139
受取補助金等	165,503,423
事業収益 (外務省 NGO 連携無償 / クラフトを含む)	209,055,819
雑収益 (為替差益含む)	3,165,875
経常収益合計	713,985,247
2. 経常費用	
事業費	
公益目的事業1 (途上国における開発協力事業及び国内外における緊急救援事業)	
タイ事業費	7,420,627
カンボジア事業費	68,546,256
ラオス事業費	29,235,445
ミャンマー国境支援事業費	55,403,576
アフガニスタン事業費	130,528,984
ミャンマー事業費	35,306,032
ネパール事業費	104,992,820
東日本大震災支援事業費	3,259,176
緊急支援費	22,187,395
海外事業支援費	52,572,739
公益目的事業1 合計	509,453,050
公益目的事業2 (開発協力事業に関する普及啓発事業)	
絵本を届ける運動事業費	35,040,822
広報事業費	50,366,727
国内事業	15,106,366
公益目的事業2 合計	100,513,915
公益目的事業共通事業費	26,354,295
公益目的事業合計	636,321,260
収益事業等	
クラフトエイド事業費	29,448,292
本で寄付するプロジェクト事業費	5,636,417
収益事業等合計	35,084,709
管理費合計	31,599,696
経常費用合計	703,005,665
評価損益等調整前当期経常増減額	10,979,582
評価損益等計	0
当期経常増減額	10,979,582
経常外増減の部	
経常外収益計	0
経常外費用	280,400
当期経常外増減額	▲280,400
税引前当期一般正味財産増減額	10,699,182
法人税、及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	10,629,182
一般正味財産期首残高	47,318,442
一般正味財産期末残高	57,947,624
指定正味財産の部 (単位:円)	
基本財産運用益, 特定資産運用益	196,991
受取補助金	342,952,195
受取寄附金	218,716,483
一般正味財産への振替額	▲383,144,769
補助金返還金	▲15,383,019
当期指定正味財産増減額	163,337,881
指定正味財産期首残高	303,545,000
指定正味財産期末残高	466,882,881
正味財産合計	524,830,505

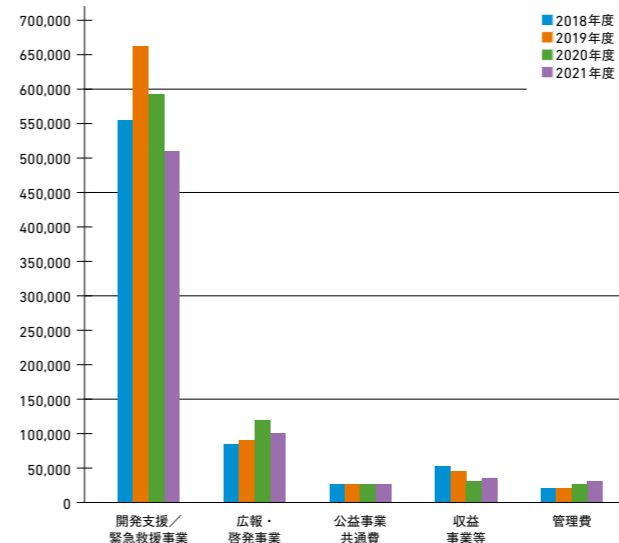
年度別収益推移表 (一般正味財産)

収益	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
会費	23,296	22,921	22,903	21,457
受取寄附金	315,266	333,412	351,997	314,606
受取補助金等	129,057	167,001	115,607	165,503
事業収益 (外務省 NGO 連携無償を含む)	211,718	282,868	250,762	184,684
クラフト本寄付収益	37,329	32,524	22,548	24,372
運用益 & 雑収益	5,121	927	1,324	3,363
合計	721,787	839,653	765,141	713,985



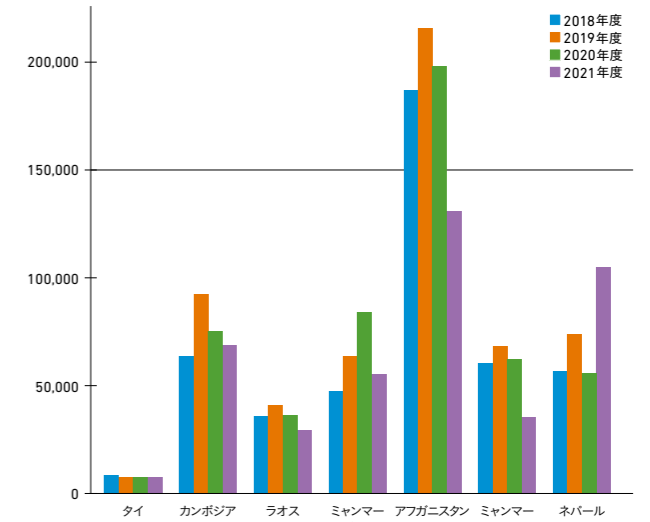
年度別費用推移表

費用	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
開発支援 / 緊急救援事業	553,949	660,834	590,569	509,453
広報・啓発事業	84,210	90,997	119,904	100,514
公益事業共通費	26,541	26,177	26,754	26,354
収益事業等	53,389	45,471	31,364	35,085
管理費	20,428	21,545	25,894	31,600



年度別開発支援事業費推移表

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
タイ	8,389	7,630	7,719	7,421
カンボジア	63,481	92,077	75,063	68,546
ラオス	35,764	41,153	36,441	29,235
ミャンマー難民	47,306	63,500	83,919	55,404
アフガニスタン	186,673	215,224	197,646	130,529
ミャンマー	60,286	68,054	62,377	35,306
ネパール	56,465	73,794	55,646	104,993



独立監査法人の監査報告書抜粋

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益(正味財産増減)の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

2022年2月28日

田中義幸公認会計士事務所
東京都新宿区
公認会計士 田中義幸



公益社団法人シャント国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。

2021年度年次報告書
発行日：2022年5月1日
発行所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
デザイン：保田卓也
写真：川畑嘉文、安井浩美

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
URL <https://sva.or.jp/> Email info@sva.or.jp

詳しくはこちら <https://sva.or.jp/>


シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。
詳しくは弊会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。

本文写真中の絵本

『この計画はひみつです』文：ジョナ・ワンター、絵：ジャネット・ウィンター、訳：さくまゆみこ、出版社：鈴木出版
『いつすんぼうし』文：石井桃子、絵：秋野不矩、出版社：福音館書店
『けんかのきもち』文：柴田愛子、絵：伊藤秀男、出版社：ポプラ社
『ポリぶくろ』1まい、すてた文：ミランダ・ポール、絵：エリザベス・スワン、訳：藤田千枝、出版社：ぎょうせい
『どうぶつ、いちばんはだあれ？』作：ジェンキンス、訳：佐藤見果夢、出版社：評論社
『みずうみにきた村（新版）』文：シエン・ヨール、絵：パーラ・クローニ、訳：掛川泰子、出版社：ほるぷ出版
『あひのこ』著者：葉祥明、出版社：佼成出版社
『おおきなか』A・トルストイ再話、内田利沙子訳、佐藤忠良画
『はらうえはほくにまかせて』作：シオン・シオン、絵：マーガレット・プロイ・クワム、訳：森比左志、出版社：ペンギン社

